

みやぎNPO夢ファンド (C) スタートアップ支援プログラム  
平成19年度助成事業 最終報告書

書式 4

平成20年 4月 28日

団体名	仙台箏箏を伝承する会
事業名	仙台箏箏復活プロジェクト第二弾、第三弾
連絡担当者お名前 (ふりがな)	阿部 隆史 (あべ たかし)
助成金を使って行った事業について、ご記入ください。 (事業の様子の写真や、関連資料などありましたら、あわせてお送りください)	
<b>仙台箏箏復活プロジェクト第二弾事業実施概要</b>	
■事業名	『仙台箏箏復活祭』
■副題	「今ここにわれら郷土の風おこす！」
■開催期間	平成19年8月28日(火)～9月 1日(土) (全5日間)
■開催場所	東北電力グリーンプラザ アクアホール(1階)
■入場料	無料 ※来場者には特典として小冊子を進呈
■目標来場者数	2,000名以上
■最終来場者数	3,187名(5日間合計)
■主旨と目的	<p>「原点回帰」を主旨とし、明治期の伝統素材・工法により復元させた復刻版仙台箏箏から、仙台箏箏の底知れぬ魅力と可能性を原点から知っていただき、これからの仙台箏箏の発展に期する手が掛かりになることを目標とする。</p> <p>また原点を知ることにより、現在の日本のものづくりの利点・欠点を見直し、自分達のみならず皆様方にも、「人とモノとの良きあり方」を模索してもらおうきっかけとさせ、これからのものづくり・健全な暮らしづくりに多少なりとも貢献していくことを目的とする。</p>
■内 容	<p>「原点回帰」を主旨として仙台箏箏の移り変わりなど、基礎知識をパネル展示。同時に復刻された仙台箏箏の展示のもと・仕様・部材・漆塗装・飾り金具などについてパネル展示、参考として明治・大正期の仙台箏箏数点を展示。</p> <p>特別展</p> <p>『仙台箏箏と煎茶道』【煎茶道による会場レイアウト】提供 織田流煎茶道 朝比奈南樹</p> <p>『日本の漆展』 【道具とパネル展示】 提供 日本うるし掻き技術保存会</p> <p>『宮城の工芸展』 【仙台椎朱、埴焼など十数点展示】 提供 高橋コレクション</p> <p>『暮らしの森展』 【パネル展示】 提供 住まいの風工房</p> <p>また会場において最終日・「仙台箏箏復活セミナー」にて職人等による解説、パネルディスカッションを行う。(つづ)</p>

助成金を使って行った事業について、ご記入ください。(続き)

『パネルディスカッション』

● テーマ **仙台の三十年後を考える**

パネリスト

- |                |          |
|----------------|----------|
| ・栗駒木材株式会社      | 大場 隆博 様  |
| ・東北工業大学デザイン工学科 | 庄子 晃子 先生 |
| ・仙台箆筒伝承する会     | 伴野 崇     |

■ 総括

本催事「仙台箆筒復活祭」をおこなったことで、仙台圏に住まれる方々をはじめ、全国に向けて当会が日頃感じていること、伝えたいと思っていることを「原点回帰」のテーマに従い一般の人に向けて発信することが出来ました。

準備期間中は、当会の人材不足などの影響により終始時間に追われっぱなしの毎日で案内の告知が遅れてしまいました。どうなることかと思いましたが、幸いにも報道各社に取り上げてもらえた為、目標来場者数を1000名以上も上回る結果となりました。

来場された方の年齢層は50～70歳代が大半を占め若年層の来場には課題が残ったものの、足を運んでくれた方々の反響が大きく、「箆筒にまつわるエピソード」、「疑問質問」、「今後のイベントへの要望」、「応援の声」など一言残して帰られる方々が多かったことに確かな手ごたえを感じました。

**仙台箆筒復活プロジェクト第三弾事業実施概要**

- |         |                                    |
|---------|------------------------------------|
| ■事業名    | 『仙台箆筒 SHOW 博覧会』 【せんだいたんすしょうはくらんかい】 |
| ■副題     | 「仙台箆筒のある暮らし展」                      |
| ■開催期間   | 平成19年11月16日(金)～11月21日(水) (全6日間)    |
| ■開催場所   | 東北工業大学一番町ロビー 1Fギャラリー               |
| ■入場料    | 無料 ※来場者には特典として小冊子を進呈               |
| ■目標来場者数 | 200名以上                             |
| ■最終来場者数 | 300名以上                             |

■ 主旨と目的

前回『仙台箆筒復活祭』の主旨に引き続くものであり、当会として前事業における主旨・内容は重要性が高く、開催期間をより長期とさせる必要があるものと判断し、前催事の延長線上として小規模ながら本催事を行なう。

前催事を御覧いただけなかった方々をはじめ、より多くの人々へその魅力を伝え、伝統工芸の技術保存の重要性を訴える場としていきたい。

■ 内容

純天然素材により復刻された仙台箆筒を展示する。復刻された仙台箆筒の「コンセプト」から「なぜ今復刻なのか？」までを基礎知識（製作工程、移り変わり）などを含め、パネル展示・またスクリーンによる映像を放映する。

特別展

「仙台箆筒のある暮らし展」【協力 宮城県民藝協会】を同時開催する。仙台箆筒と日常生活を演出した空間の中で、臨場感を持ってこれからのより良き暮らしを提案する。

■ 総括

今回も目標来場者数に達することができ、開催地の条件下では、比較的足の運びがよかったのではないかと思います。会場が東北工業大学のギャラリーということもあり、前回とは、一転して若年層の方が多かった。また、大きな混雑もなかったおかげで、来場してくれた方々と直接会話することが出来たことがとてもよかったです。

今回の事業によって、団体の活動や地域社会にどのような成果・効果がありましたか。

仙台の風土が生み出した『仙台筆筒』という伝統工芸を、市民活動のイベントとして全国的に、PRできたことがまず挙げられます。結果、県外からわざわざ足を運ぶ方が増えたことなど、予想を大きく上回る来場者に恵まれ、大変多くの人たちに向けて発信が出来たことが最大の成果です。来場していただいた方々のご意見や反響もとても多く寄せられ、私たちにとって大変な刺激となり、当会の必要性と今後の活動への期待から時代ご求められていることの確信を得ることができました。

内容は明治期～昭和初期に掛けて仙台（仙台藩）の暮らしの中の道具であった『仙台筆筒』（原点的仙台筆筒）を改めて見たり、知って頂いたり、私たち作り手が日頃感じていることを一方的にぶつけたものですが、多くの方が共感して下さったらしく、最終的には自身の筆筒に対する思いを出話して帰られる方がとても多かったことに素直に喜ぶことができました。このイベントを行なったことで、仙台人が仙台人として残さなければならぬ文化には、『仙台筆筒』をはじめとした、高度な技術を要する工芸品があるということに足を止め、見つめる機会を微力ながらも皆様につくれたのではないかと感じています。

なお、イベントに来られた人の中には「使ってもらえるなら」と、以前に仙台筆筒をつくられた人の道具を寄贈したいという方や、古い仙台筆筒（明治期頃）をお譲りしたいという方が現れました。さらに、イベント終了後には、『生活文化大学』からパネルディスカッションへの出演依頼が来るなど小さいながらも交流が生まれ出始めています。

また、『宮城の工芸展』に協力頂いた方のお名に『若手の工芸士』たちから展示品をもう一度見たいという連絡があるなど、当会以外においても協力いただいた方の中にも反響があったという声もよく耳にしました。

結果、私たちはこの助成事業で小規模ではありますが、社会現象を起こすことができたのではないかと感じております。

今回の助成事業を行って見えてきた課題は何ですか。

また、その課題解決に向けて必要なものは何ですか。

私たちが行ったイベントの運営の中で大変苦勞したことが、当会組織の代表、副代表の所属する会社組織との関係でした。両組織とも「仙台筆筒」という同一分野での事業ということもあり、立場上の問題で一定の距離間を保つことが非常に難しいものでした。今後の活動についてはより注意を払い、より公益的な活動になるよう模索していきます。

また、報道に関係にしても同じく『仙台筆筒を伝承する会』が「市民活動で・・・」と言った捉え方をしてもらえないという事例が目立ちました。まだまだ市民活動という分野の認知度が低く、一般的に何となくでしか理解されていないと感じました。

このように、明確になった課題の解消法として、私たちは公益的活動の理解を会社組織に求め、今後必要となってくるであろう、企業の社会貢献活動（会社の非営利化）への理解を求めて行きたいです。

具体案としては、当会と会社組織の意見交換の場を作る事を考えていますが、今後の活動に対しては理解を得ながら、企業へ極力影響が及ばない範囲での事業を模索していきます。

今回の事業を、今後どのように展開していきますか。

また、その際に必要なものは何ですか。

イベント来場者から寄せられたアンケートの中には、応援の声や多くの要望をたくさん頂きました。私たちがその期待に答えるためには、伝統技術の修得と会組織の拡大が不可欠であり、両輪で進んでいくことが最良であるという考えに至りました。今年度助成を頂いた事業を終え、私達が今一番大切にしなければならないと感じていることは、人びとに感動してもらえる仙台筆筒を作る技術の継承と更なる発展であり、それを失くしたくないと感じてくれる仲間を増やしていくことだと思いました。

行いたい事業は山ほどありますが、長い日で見ながら今行わなければならないことを見極めながら、コツコツと賛同者を増やして行きたいと思っています。

#### 現在、行ないたいと考えている事業

- 仙台筆筒の技術習得と革新
- まち歩き〔仙台筆筒のある暮らしめぐり〕
- 仙台筆筒の研究●仙台筆筒の展示会〔新田仙台筆筒を数多く集めての展示会〕
- バスツアー〔うるし掻き体験、植樹会など〕●帰ってきた仙台筆筒復活祭<sup>®</sup>
- ワークショップ〔一日職人体験〕

他

助成金の使途内訳（具体的に記入してください）

収入の部

項目	予算（円）	決算（円）	備考
みやぎNPO夢ファンド助成金	¥200,000	¥200,000	
19年度会費	¥34,000	¥42,000	19年度会員 正会員 ¥3,000 × 10名 賛助会員 ¥2,000 × 5名 学生会員 ¥1,000 × 2名
協賛金	¥100,000	¥100,000	(小冊子・ポスター等記載) 一枠/¥10,000×10枠
寄付金	¥26,000	¥52,000	協力者・賛同者からの寸 志等の合計額
前年度より繰越	¥22,992	¥22,992	
合計	¥382,992	¥416,992	

支出の部

項目	予算（円）	決算（円）	備考
印刷代（イベントPR）	¥158,250	¥158,250	○ポスター(B2) / 200枚 ¥21,800(印刷料) ○原画撮影代 ¥5,250 ○チラシ(A4) / 2,500枚 (印刷料) ¥13,000 ○小冊子(A4/8頁) 3000部 (印刷料) ¥78,200 ○デザイン料 ¥40,000
謝礼金（品）	¥48,000	¥52,564	○原稿料（小泉和子氏） ¥30,630 ○飲食費 ¥21,934
展示物製作費	¥112,500	¥95,477	○大型印刷 (¥500~¥3,000×22枚) ¥65,046 ○パネル用ボード(B1~A2) 1枚 ¥1200~/20枚 ¥29,707 ○模造紙 ¥724
運送費	¥15,000	¥37,181	○レンタル料(トラック1台： 1日 ¥8,400/全4日間) ¥33,600 ○燃料費 ¥2,681 ○駐車料 ¥900
事務費用	¥17,300	¥16,098	○実行委員会会議室使用料 (1時間/¥400)×5時間 ¥2,000 ○封筒・筆記用具・CDR ・その他の文具代 ¥5,964 ○印刷用紙 (500枚/¥337~¥630) ×20setほど ¥2,923 ○印刷代 ・簡易印刷/¥100×35製版 ¥3,500 ・コピー/(¥10~¥182) ×64枚 ¥1,711

郵送費	¥10,000	¥11,594	○切手代 ・(¥80・¥90)×28通 ¥2,300 ・定形外(¥140~¥580)×50通 ¥7,810 ○展示パネル輸送費 (個数:1) ¥1,484
記録費用	¥30,000	¥18,576	○同時プリント代 36枚・24枚撮り (¥1,002~¥1,408)×16本 ¥14,774 ○フィルム・電池・その他 ¥3,802
合計	¥391,050	¥389,740	

**寄付をいただいた方へのメッセージをどうぞ**

本会は当初、本事業を含めた『仙台筆筒復活プロジェクト』実行を目標に立ち上げた組織でした。立ち上げ当初はNPOや市民活動など言葉の意味も分からずに市民活動サポートセンターに相談に行き、そこでアドバイスを伺いながら組織づくりを行ないました。一つ一つこなしていく中で公益的活動のしゅみや必要性も勉強することができ、私たちの活動が少しでも公益的活動の活性化に繋がればと思うようにもなりました。幸いにも今回助成金を頂くことができ、念願の構想を形にすることができました。もちろん、今回で私たちの目的が達成できた訳ではありません。今後は、この経験を活かし『仙台筆筒』という伝統工芸品を通じて、何が大切なのかを研鑽し、啓発していきたいです。皆様、誠に有難うございました。